

城北まちづくり通信

2022/5/12

38号

城北まちづくり協議会
事務局：城北地区公民館

『愛の訪問協力員』・『となり組福祉員』について

『城北の“話し愛・支え愛”』の“地域づくり”（モデル地区）を、多くの方々が推進してくださっています。

前号では、城北地区の「民生児童委員」の方々（15名）を紹介しました。

今号では、『愛の訪問協力員』と『となり組福祉員』の皆さんを紹介します。

名称	『愛の訪問協力員』 ひとり暮らし高齢者等のサポーター	『となり組福祉員』 地域の中の困りごとの発信役
主 な 活動	65歳以上のひとり暮らしの方を対象に、日常的に声をかけあって、緊急時に支援ができる人間関係をつくっておくことが期待されています。（話し相手）	町内会などで発生する身近な福祉課題を早期に発見し、問題が深刻になる前に支援機関へつなげる活動が期待されています。
選 出 方法	民生児童委員がひとり暮らしの方の了解のもとに協力員を選出します。（当事者が依頼されてもけっこうです。）	町内会が、小グループ（班ごと等）ごとに福祉員1名を選出します。
任期	3年（再任は妨げない）	2年（再任は妨げない）
推薦 委嘱	城北地区社会福祉協議会会長が鳥取市社会福祉協議会会長へ推薦 鳥取市社会福祉協議会会長が委嘱	
城 北 地 区	会長 入江 順子さん	会長 日下部 進さん



活動の基本は、『お互い様の精神』（助けてあげたり、自分が助けてもらったりする）で、お互いの“さりげない気づかい”や“ちょっとした目配り”を通して、地域の中で発生する様々な福祉課題を早期に発見し、問題が深刻になる前に防ぐことです。

同時に、ご近所の人だからこそわかる「普段の様子と少し違う！」ちょっとした異変、サインを見逃さないことです。

私たちが暮らす城北地区には、高齢者や障がいのある方、子育て中の方など、様々な方が生活しています。

また、全国に目を転じると、人間関係の希薄化により、孤独死や虐待・ヤングケアラーなどの社会的孤立が原因と思われる様々な問題が発生しています。

少子高齢化に伴い、単身高齢者世帯（城北：429戸）や、高齢夫婦世帯（城北：719戸）の増加など、支援を必要とする世帯も増えています。

誰もが住み慣れた地域で安心して、自分らしく暮らせるよう、鳥取市と鳥取市社会福祉協議会は連携して、より効果的に地域福祉の推進を目指す行動計画として、「地域福祉活動計画」（2019年から6年間）を作成しています。

* 鳥取市社会福祉協議会ホームページ内で閲覧できます：<https://www.tottoricity-syakyo.or.jp/shakyo/keikaku/>

この「地域福祉活動計画」にそって、地域福祉の推進役である鳥取市社会福祉協議会が主体となって、民間の立場から地域の自主的・自発的な福祉活動を様々な面から支援（人的・財政的）しています。

城北地区は、その活動計画に則って『地域の“話し愛・支え愛”』の“地域の仕組みづくり”（モデル地区）をこれからも推進していきます。